

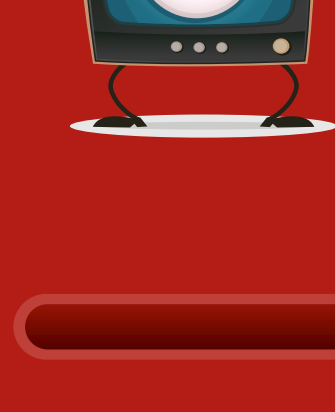


2015年、懸念が不要の5つのセキュリティ脅威と注意すべき5つの脅威

ウォッチガードは、パスワードから、IoT (Internet of Everything)、国家間のサイバー戦争、そしてモバイルマルウェアまで、2015年の情報セキュリティ傾向の分析結果を発表しました。

懸念が不要な5つのこと

1 IoT (Internet of Everything) デバイスを標的とする攻撃が急増することはない



急増する組み込み型コンピューティングデバイス (IoTとIOE) はセキュリティ上の欠陥を抱えています。しかしながら、今日のサイバー犯罪者はこれらのデバイスをハッキングをする事はないでしょう。彼らにとって、時計やテレビなどのデバイスを制御することに大きな魅力はないので暫くは、それらを直接ターゲットにすることはありません。

2 クラウドサービスの利用がこれまでのように飛躍的に増加することはない



「スノーデン効果」、およびクラウドサービスから多くの情報漏えいが発生したことにより、組織は機密情報の保管場所にさらに神経を尖らせるようになります。しかしながら、重要度の低いデータに関してはこれまで同様にクラウドの利用が進んでいきます。つまり、すべての情報をクラウドに置くわけにはいかないことが証明されるでしょう。

3 2015年、2016年、2017年、それ以降もパスワードが不要になることはない



多くのパスワードが詐取されていますが、問題はパスワード自身に存在するのではなく、組織のパスワードに対するセキュリティ体制に課題があると言えます。

来年には二要素認証がオンラインのあらゆる場所で使用されるようになり、パスワードはそのうちの一要素として利用されていくでしょう。

4 セキュリティ設計がイノベーションに勝つことはない



人間は、結果を恐れずに常に革新的なテクノロジーの開発に突き進むものです。私たちが革新的なものを発明し、境界を超えるためには、リスクを取る必要があります。つまり、これまでのようにイノベーションが優先され、セキュリティ担当者は今後も新しいテクノロジーによる運用メリットと、潜在的なセキュリティリスクとを常に天秤にかけていかなくてはならないでしょう。

5 SDNにセキュリティの問題がいずれ発生しますが、数年先まで心配する必要はない



来年または数年先までSDN (Software Defined Network) に関するセキュリティを懸念する必要はありません。話題になっていますが、まだ主流になることはないでしょう。

重視すべき5つの脅威

1 国家間のサイバー冷戦の激化



世界各国がサイバー攻撃および防衛能力を向上させており、水面下ではお互いに諜報戦を展開し、企業の知的財産までもが狙われています。来年にはさらにサイバー産業スパイ事件が露呈し、既に始まっているサイバー冷戦では国家が着々とサイバー能力を「誇示」し、国民の不安の声が高まるでしょう。

2 マルウェアがさらに威力を増し、攻撃対象がデスクトップからモバイルデバイスに



マルウェアが従来のオペレーティングシステムからモバイルプラットフォームへ、あるいはその逆へと攻撃対象を乗り換えるといった、ハッキングの巧妙化が見られますが、現在までは特に大きな被害には至っていません。しかし、2015年には、ハッカーがモバイル攻撃から金銭的利益を得る新しい方法を編み出すものと思われま。モバイルのマルウェアはさらにその攻撃性を増し、例えばランサムウェアがカスタマイズされ、金銭的要求に従わない場合にモバイルデバイスが使用できなくなるといったケースが多発するかもしれません。

3 暗号化が飛躍的に増加する一方で、政府も解読を試みている



政府が「法を執行するための手段」として、暗号化データを復号化するための手段を講じているのと同様のスピードで暗号化の利用が増加しています。セキュリティの専門家は、できるだけ暗号化を活用し、プライベートを保護するために復元が不可能な暗号化の開発に取り組む必要があります。スループットを低下させず、ビジネスに影響を与えずに増加する暗号化トラフィックの利用に対処できるネットワークを構築しなければなりません。

4 あらゆる規模の組織が標的型攻撃の対象に



今後サイバー犯罪者は金銭を詐取するために、どのような方法で標的型攻撃を試みていくのでしょうか?それはこれまでの特定の個々の組織から、あらゆる規模の組織を縦断的に攻撃していくことです。今後のサイバー犯罪者は、利益が得られると見るやいなや、あらゆる規模の組織を標的にしていくでしょう。

5 ハッカーの動機を把握することが防御上重要



ハッカーはいたずら好きなお子様じみた行為から、組織的犯罪グループによる膨大な情報資産の盗難、あるいは国家規模での長期にわたる諜報活動まで、目的を持ったサイバー活動家へと変身を遂げています。多様な犯罪者の目的や方法を知ることが、組織を脅かす犯罪者とその攻撃方法を知る上でもっとも重要となります。

LEARN MORE.

Go to www.WatchGuard.co.jp